

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：82628

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24330097

研究課題名(和文)学際的アプローチによる医療・介護サービスの利用・機能に関する制度横断的分析

研究課題名(英文)An Interdisciplinary Approach to Cross-sectorial Analyses of Utilization and Functions of Health and Long-term Care Services

研究代表者

泉田 信行 (IZUMIDA, Nobuyuki)

国立社会保障・人口問題研究所・社会保障応用分析研究部・第1室長

研究者番号：70360716

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,500,000円

研究成果の概要(和文)：国民健康保険、後期高齢者医療制度、介護保険制度、などの地域をベースとする医療・介護保険制度における個人ごとの給付を連結するデータセットを作成したことは本研究の成果のひとつである。これにより、個人が加入する医療保険制度が変化しても、サービス利用状況を正確に把握することが可能となった。このデータをを用いて、保険料の納付状態と医療費の関係、医療費使用と制度異動の関係、などについて明らかにすることができた。

さらに、地域に暮らす高齢者を対象として、社会学、経済学の研究者が共同してインタビュー調査、参与観察、質問紙調査を設計・実施し、サロン活動に参加する高齢者の健康状態などの特性について明らかにした。

研究成果の概要(英文)：A major contribution of this project is to construct the micro-based data which consists of both health care (HC) and long term care (LTC) use for an elderly person. This data makes the inter-temporal use of both care traceable for each individual, even if a person transfers National Health Insurance to the latter-stage elderly healthcare system when he/she become 75 years old. Also, using this data, we could quantitatively clarify the relation between the use and expenditure of HC and LTC, the effects of the transfer of type of health insurance on HC expenditure, and the relation between HC expenditure and the insurance premium evasion, etc.

Moreover, we conduct the inquiring survey (interview, participant observation and questionnaire) from interdisciplinary point of views of sociologists and economists in our project. Using this survey, we could verify socio-economic characteristics and health status of elderly person within the community who participate into the salon activities.

研究分野：医療経済学

キーワード：医療 介護 学際的アプローチ

### 1. 研究開始当初の背景

日本の医療・介護制度が果たしている機能については、国際的には関心を惹いているものの、研究論文という形ではこれまで余り海外において紹介されていない。最近、英国の権威ある医学誌 The Lancet において日本の医療制度を特集した Japan Series が刊行された。そのうちのひとつの論文は、日本の医療制度について、病院の機能分化が進んでいない病院は院内死亡率が高いこと、慢性期の疾病管理が十分でないことなどの問題があることを、また別の論文は、介護保険制度実施後も家族介護者の主観的な健康感は改善されておらず、居宅サービスの利用について検討する余地があることを指摘している。さらに、日本は比較的所得や健康の格差は小さいとされてきたが、実際には拡大傾向にあることも指摘されている。

これらの論文は、医療・介護サービスの利用や機能について、日本国内のマイクロデータを用いた分析水準が極めて高い論文である。日本国内の医療・介護サービス利用について、マイクロデータを用いた分析水準が高い論文が報告されてきている。しかしながら、データの制約が未だ残ることにより所得と健康の関係、行動の(非)合理性など未解明な点も多く残っている。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、医療・介護サービスの利用状況と、それらのサービスが果たしている人の健康・障害からの解放という機能のうち、国際的にも関心が高いと考えられる側面について、学際的な研究者チームが、情報が豊かな制度横断的な統計データを整備し、高度な統計的手法により分析することにより、これまで明らかにされていなかった新規の知見を得ることを目的とする。

研究班では、終末期も含めて医療・介護サービスの利用実態を包括的に明らかにする。特に家族(家庭)の有無・人数と病者・要介護者のインフォーマル・ケア提供とその裏側にある公的サービス利用の関係について、医療ニーズ・介護ニーズの双方を踏まえて分析した研究は国際的にもほとんど存在しないため、この点を特に踏まえて分析を行う。

医療保険制度や介護保険制度においては本人の受診や要介護認定申請によってサービス利用が開始される。よって、サービス利用が無い個人の真の医療・介護ニーズは観察することはできない。他方で、真の医療・介護ニーズがありつつもサービス利用が無い個人が存在する可能性があり、かつ、それが経済的な要因によらないことを示唆する研究も出てきている。経済的な要因によらずニーズが存在するにも関わらず医療・介護サービスを利用しない者が存在する可能性は日本のみならず、ユニバーサルサービスとして医療・介護サービスを提供している国でも関心を惹く問題であると考えられる。そこで、

本研究では未利用者も含む医療・介護データセットの作成を行うことにより、サービス利用者と未利用者間で主観的健康感や ADL 等の健康・障害指標が異なるか、それらは社会経済要因や地域的な要因により異なるかを明らかにする。

### 3. 研究の方法

使用したデータは大別すると3種類であった。ひとつは市町村から情報提供を受ける、国民健康保険・公的介護保険・後期高齢者医療制度・生活保護に関する加入者台帳、受給者情報、および付随する所得の情報である。これらは社会保障制度の業務データとして市町村が管理している情報である。

これらの利用情報を市町村に対し提供を依頼し、同一個人は同一の ID が割り振られるように連結不可能匿名化されたデータを分析に使用した。

2種類目のデータソースとして、アンケート調査等を実施した。調査対象者を比較的医療ニーズが高いと考えられる中高年者に限定して実施した。医療サービス利用に関する客観的な情報と主観的な健康感や ADL, IADL の情報を調査することにより、サービス利用、主観的な医療・介護ニーズ、個人属性について情報を得て分析に利用した。

3種類目のデータソースとして、厚生労働省による国民生活基礎調査の個票について二次利用申請を行って分析に使用した。

### 4. 研究成果

本報告書作成時点における研究論文の刊行、学会報告については次項に示すとおりである。引き続き成果報告が予定されているところである。

研究成果のひとつは医療・介護レセプトの連結データセットによるものである。このデータには所得の情報、国民健康保険加入者については保険料の納付状況の情報も付与されている。このデータセットにより、医療保険制度(国民健康保険 後期高齢者医療制度 医療扶助)をまたいで医療費を使用する者についても、包括的に医療支出が把握することが可能となった。このデータセットを用いて実証分析を行うことにより、幾つかの分析を行った。まず、医療費支出が多額になると制度を異動する可能性(国民健康保険 後期高齢者医療制度)が示唆された。また、国民健康保険から後期高齢者医療制度に異動した高齢者が異動前後で高額の医療費を使用し続ける可能性も明らかになった。

保険料納付状況を用いた分析からは、国民健康保険における短期証・資格証明書の交付の効果についても明らかにされた。短期証・資格証明書の交付が受診を抑制すると考えられてきたが、実際には受診率低下は短期証・資格証明書の交付の起因となる保険料未納の時点から発生している可能性が示唆された。

高齢者の医療・介護サービス利用についての調査も実施した。某市の高齢者ふれあいサロンにおける参与観察、サロン参加者に対するインタビュー調査、サロン参加者・非参加者（一般高齢者）に対する質問紙調査から、サロン参加の心的構造、サロンの活動が健康にもたらす影響などについて検討を行った。サロン活動の機能のうち会食の場としての機能について明らかにした。また、サロン活動に参加する高齢者は、『他者との交流の希望』があり、『毎日の生活を楽しむ』気持ちが強かった。また、友人との楽しい時間を過ごすことが高い自己肯定感や自立への自信とつながり、自身の健康評価を高めている可能性が示唆された。

厚生労働省の『国民生活基礎調査』の個票の再集計からは、まず、所得水準と健康状況の関連についての分析が行われた。これらの結果については平成 27 年度の国際医療経済学会（International Health Economics Association）において報告が行われる予定である。また、短時間労働者の健康状態の関連についても

なお、平成 24 年度に本研究に関連する分野の学会権威者である Janet M. Currie 氏を招へいし、研究会を開催した。同氏の講演のみならず、研究班の成果も報告し、研究成果の質の向上を図るとともに、国際的な学术交流が行われた。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 4 件)

1) 住友和弘・大津唯・増淵悠太他「旭川医科大学医学部循環呼吸療再生フロンティア講座における医学生教育について」『旭川医科大学紀要（一般教育）』29 巻,2013 年,pp.47-60.

2) 大津唯・山田篤裕・泉田信行「短期被保険者証・被保険者資格証明書交付による受診確率への影響 - 国民健康保険レセプトデータによる実証分析 - 」『医療経済研究』,vol.25(1),2013,pp.33 - 49

3) 白瀬由美香・大塚理加・大津唯・泉田信行「高齢者の居場所づくり事業に関する検討 - 網走市高齢者ふれあいの家をもとに」『大原社会問題研究所雑誌』, vol.680, 2015, pp.54-69.

4) 泉田信行「被用者の健康状態の労働時間と医療保険間の差異」『日本労働研究雑誌』vol.659,2015,pp.79-97.

〔学会発表〕(計 23 件)

1) 濱秋純哉「健康保険料は賃金にどれだけ転嫁されているか? : 組合別パネルデータを用いた実証分析」日本経済学会, 2012 年 10 月 7 日,九州産業大学.

2) 大津唯「加入日数と所得階層による受診

率・医療費格差」社会政策学会,2012 年 5 月 27 日,駒澤大学.

3) 大津唯「短期証・資格証保持者の医療アクセスに関する分析」社会政策学会,2012 年 10 月 14 日,長野大学.

4) 泉田信行「市町村国民健康保険者の財源調達について」日本財政学会,2012 年 10 月 27 日,淡路夢舞台国際会議場.

5) 泉田信行・田宮菜奈子「医療・介護レセプトの連結データによる健康寿命の算出」日本人口学会,2013 年 6 月 2 日,札幌市立大学芸術の森キャンパス.

6) 白瀬由美香・大津唯・大塚理加・泉田信行「高齢者ふれあいサロンへの参加に至る心理的・社会的要因:参加者へのインタビュー調査から」第 55 回日本老年社会学会大会,2013 年 6 月 5 日,大阪国際会議場.

7) Hamaaki, Junya and Haruko, Noguchi “The impact of health problems on income of the elderly in Japan” The 9th World Congress of the International Health Economics Association, 2013 年 7 月 8 日, Sydney Conference Centre, Australia.

8) Reo, Takaku “Price Elasticities among Children and Hospitalization Offset: Evidence from Japan” The 9th World Congress of the International Health Economics Association, 2013 年 7 月 10 日, Sydney Conference Centre, Australia.

9) 大津唯「国民健康保険制度と生活保護制度の間を異動する個人の受診行動に関する分析」医療経済学会第 8 回研究大会,2013 年 9 月 7 日,学習院大学.

10) 高久玲音 “Using Multiple Amalgamations to Identify Strategic Interactions in Japanese Community-Based Health Insurance” 医療経済学会第 8 回研究大会, 2013 年 9 月 7 日,学習院大学.

11) Reo Takaku “ Using Municipal Amalgamations to Identify Strategic Interactions in Japanese Community-Based Health Insurance ” Public Economics Program Workshop, 2013 年 10 月 7 日,Hitotsubashi University.

12) 白瀬由美香・大津唯「高齢者の居場所作り事業の効果に関する検討:北海道の事例から」社会政策学会第 127 回大会, 2013 年 10 月 13 日,大阪経済大学.

13) Yumika, Shirase, Rika, Otsuka, Yui, Ohtsu and Nobuyuki, Izumida “ Social and Psychological Factors of Participation in Neighborhood Social Activity Groups for Senior Citizens in Japan ” 66th Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America, 2013 年 11 月 21 日, Sheraton New Orleans, USA.

14) 白瀬由美香・大塚理加・大津唯「高齢者ふれあいサロンの会食の場としての機能に関する検討 - 参与観察およびインタビュー調査に基づく質的分析 - 」日本老年社会科学

会,2014年6月8日,下呂交流会館アクティブ.

15) 泉田信行・白瀬由美香・大塚理加・大津唯「高齢者ふれあいサロンへの参加・非参加が低BMIに与える影響: サロン参加者と一般市民に対する質問紙調査に基づく分析」日本老年社会科学会,2014年6月8日,下呂交流会館アクティブ.

16) 泉田信行・大津唯・山田篤裕「医療費の集中度と持続性についての一検討」医療経済学会,2014年9月6日,学習院大学.

大津唯「国民健康保険の加入・脱退と医療費水準」医療経済学会,2014年9月6日,学習院大学.

17) 菊池潤・田近栄治「高齢者のケアにおける医療と介護の関係」日本財政学会,2014年10月26日,中京大学(名古屋キャンパス).

18) 大津唯・山田篤裕「低所得者の医療利用と制度間異動の国民健康保険財政への影響」日本財政学会,2014年10月26日,中京大学(名古屋キャンパス).

19) 泉田信行・大津唯・山田篤裕「早期の健康喪失が国民健康保険と後期高齢者医療制度にもたらす影響」日本財政学会,2014年10月26日,中京大学(名古屋キャンパス).

20) Yoko, Ibuka and Junya, Hamaaki "Dynamics of Health and the Economy over Time in Japan" 日本経済学会春季大会,2015年5月24日,新潟大学.

21) 泉田信行・白瀬由美香・今堀まゆみ・野口晴子「地域在住高齢者の健康・幸福感と家族介護との関連: 主観的健康観・主観的幸福感の関連を踏まえた分析」日本老年社会科学会,2015年6月14日,パシフィコ横浜.

22) 大塚理加・白瀬由美香・大津唯・泉田信行「高齢者ふれあいサロン参加者の生活の楽しみと健康感について」日本老年社会科学会,2015年6月13日,パシフィコ横浜.

23) 大津唯「医療扶助はモラルハザードを引き起こすか? - 生活保護受給開始前後の医療機関受診に関する分析」社会政策学会,2015年6月27日,お茶の水女子大学.

〔図書〕(計 0 件)

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

泉田信行 (IZUMIDA, Nobuyuki)

国立社会保障・人口問題研究所・社会保障  
応用分析研究部・第1室長

研究者番号: 70360716

### (2)研究分担者

山田篤裕 (YAMADA, Atsuhiko)

慶應義塾大学・経済学部・教授

研究者番号: 10348857

菊池潤 (KIKUCHI, Jun)

国立社会保障・人口問題研究所・社会保障  
基礎理論研究部・第3室長

研究者番号: 30506481

黒田有志弥 (KURODA, Ashiya)

国立社会保障・人口問題研究所・社会保障  
応用分析研究部・研究員

研究者番号: 70582724

野口晴子 (NOGUCHI, Haruko)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号: 90329318

### (3)連携研究者

田宮奈々子 (TAMIYA, Nanako)

筑波大学・大学院医学医療系・教授

研究者番号: 20236748

猪飼周平 (IKAI, Shuhei)

一橋大学・大学院社会科学研究所・教授

研究者番号: 90343334

中村さやか (NAKAMURA, Sayaka)

名古屋大学・大学院経済学研究科・准教授

研究者番号: 20511603

井深陽子 (IBUKA, Youko)

東北大学・大学院経済学研究科・准教授

研究者番号: 20612279

白瀬由美香 (SHIRASE, Yumika)

国立社会保障・人口問題研究所・社会保障

応用分析研究部第3室長

研究者番号: 504544927

酒井正 (SAKAI, Tadashi)

法政大学・経済学部・教授

研究者番号: 00425761

### 研究協力者:

大塚理加 (Ohtsuka, Rika)

菅万里 (KAN, Mari)

濱秋純哉 (HAMAOKI, Junya)

高久玲音 (TAKAKU, Reo)

大津唯 (OTSU, YUI)

河上 哲 (KAWAKAMI, Tetsu)

西田喜平次 (NISHIDA, Kiheiji)

福島和矢 (FUKUSHIMA, Kazuya)

福井真夫 (FUKUI, Masao)

今堀まゆみ (IMAHORI, Mayumi)